

# 第6回 北海道新聞 エコ大賞



企業・団体の部  
**大賞**



## 山のトイレマナー 普及で自然を守る

「山のトイレを考える会」

登山者による排せつ物や尿の処理の乱れを防ぐため、山のトイレガイドや持ち帰り後の配布や清掃登山などを16年前から行っている「山のトイレを考える会」が、大賞を受賞した。この活動は、山の上でトイレの処理を適切に行うことで、自然環境を守り、登山者の安全を確保することを目指す。また、登山者の意識を高め、自然環境を保護する活動にも取り組んでいる。

10件の環境保全アクションに拍手！



企業・団体の部

- 【大賞(賞金30万円)】
  - 山のトイレを考える会
  - 【山岳トイレ問題の普及啓発・ネットワーク】
- 【奨励賞(賞金10万円)】
  - 駒生川に魚道をつくる会
  - 【みんなでつくるう 手作り魚道】
  - 北海道希少生物調査会
  - 【希少野生動物種の調査研究及び啓発・教育活動】
- 【努力賞(賞金3万円)】
  - おはよう共同作業所
  - 【着作りリサイクル製品作り】



家族・サークルの部

- 【大賞(賞金10万円)】
  - 該当なし
- 【奨励賞(賞金3万円)】
  - 安岡 時彦さん
  - 【我が家のエコ活動】
  - 佐藤 武三さん
  - 【ペットボトル太陽熱温水器】



小・中学校の部

- 【大賞(図書カード5万円分)】
  - 該当なし
- 【奨励賞(図書カード3万円分)】
  - 札幌市立定山溪中学校
  - 【育てて学ぶ、森のはたらき】
  - 札幌市立米里中学校科学部と3学年
  - 【フードリサイクル堆肥をつかった栽培実践と学級紙】
  - 札幌市立平岸中学校
  - 【平岸中 エコ行動「見える化」節電プログラム】
  - 札幌市立北辰中学校 科学部 チーム有孔虫
  - 【北海道の海洋環境と有孔虫】

### 企業・団体の部

魚が泳ぐふるさとの川を再生

【駒生川に魚道をつくる会】



美幌町の駒生川は河川改修によって、魚が泳げなくなりました。そこで地産地消や行政関係者、大学生などが協力して、魚道づくりを推進。木や石など自然素材を利用して、自然に近い状態に近づけようとしています。

希少生物の生息状況を調査・発信

【北海道希少生物調査会】



希少生物類シロマタラヤコウモリなどの生息状況を調査。一人一自然の距離を縮めたいという思いから、札幌市山手区や札幌市東区など、札幌市内各地で調査を行っています。

古い着物に新しい命を吹き込む

【おはよう共同作業所】



チャリテイザーで売れ残った中古着物を布資源やあすま殺などリメイクして再販。20年にわたるリサイクル活動が評価されました。

### 家族・サークルの部

エコアクションを日常の一部に

【安岡 時彦さん】



太陽光を活用した節電や雨水の再利用。庭木を夏の日照けに利用し、対応した株をまきまきエコアクションを日常の一部として実践。冬は家の周囲の雪を踏み固める作業で排雪効率アップと健康増進を両立させています。

0円で実践！エコなDIY

【佐藤 武三さん】



不用なペットボトルと発泡スチロールの箱で太陽熱温水器を作製。それぞれ黒色の水性塗料を塗って熱吸収を高める。太陽の向きに合わせて角度や位置を変えるなどの工夫で、晴天時の水温は75℃にも達します。

### 小・中学校の部

定山溪の未来へ贈る夢の森づくり

【札幌市立定山溪中学校】



定山溪の水源の森にある土壌跡地で植林活動を実施。周辺森林と潤した森づくりを目指して、現地に落ちた木を育てた苗木を13種ほど植えて育てています。

「廃棄食材」と「食」の循環を学ぶ

【札幌市立米里中学校科学部と3学年】



イタリから支給されるフードリサイクル堆肥を使った土で作物を栽培し、堆肥の効果を測定。廃棄食材と「食」の循環を体験的に学び、環境保全意識が養われました。

教室でできるエコアクション

【札幌市立平岸中学校】



学校の太陽光発電システムについて過去5年間の電力消費状況をグラフ化して分析。空き教室の消灯や休日の節電を全校に呼びかけました。

審査委員長 選評

### お手本にしたい、継続の力。

北海道産の食料も観光も良好な環境あつてのこと。この地に住む私たち自身、日常生活でもしっかりと意識をもって信頼に応えたいものです。魅力あふれる北海道の山岳地帯は、全ての動物が頼りにしている水の源でもあります。増えた登山者の落とし物の始末に頭の下がる活動を長年続けている「山のトイレを考える会」が大賞に輝きました。山も海も街もきれいを世界の模範にしたいものです。自然環境にとどまらず、精神的・文化的環境も大切です。長年、優しいぬくもりを地域社会に広めている「おはよう共同作業所」が努力賞を受けられました。受賞された諸活動を参考に、各自でできる工夫を積み重ね、健全な北海道を未来世代に伝えていきたいものです。

【審査委員】 ●小林 三樹氏(公益財団法人北海道環境財団理事長) ●ピアンカ フルスト氏(環境カウンセラー・札幌環境保全アドバイザー)  
●大原 昌宏氏(北海道大学総合博物館教授) ●寺澤 純(北海道新聞社 取締役 経営企画局長)  
●曹井 貴子氏(フリーキャスター・気象予報士)

次回予告!

### 来年度の第7回北海道新聞エコ大賞は、さらに内容を充実! ぜひご応募ください!!

北海道新聞エコ大賞は、日頃から道内各地で環境活動に取り組んでいる団体・個人を募集し、表彰することで活動の発展を目的として実施しています。そして受賞された活動を道民の皆さまに紹介し関心を高めることで、さらなる普及につながることを願っています。第7回となる来年度は、テーマを絞った活動の募集や、子供達にも簡単に応募してもらえる身近な賞の新設など、充実した内容として実施する予定です。沢山の皆さまのご参加を期待しています。

生命を育む海の素晴らしさを実感

【札幌市立北辰中学校科学部 チーム有孔虫】

沖繩の砂浜で見られる「星砂」は有孔虫という生物の遺骸ですが大気中の二酸化炭素が増えたと海が酸性化し、有孔虫は殻を作れなくなりました。中学生でもできる簡単な手法で道内各地の砂を観察した結果、石狩湾沿岸で有孔虫を確認。顕微鏡を通して北海道の海の素晴らしさを学び、海洋環境保護の意識を持つきっかけとなりました。

【審査評】 海砂の観察から海洋生物が暮らしていた大壮ドラマと関心が広がる環境学習を評価しました。

素晴らしさを実感

【札幌市立北辰中学校科学部 チーム有孔虫】

沖繩の砂浜で見られる「星砂」は有孔虫という生物の遺骸ですが大気中の二酸化炭素が増えたと海が酸性化し、有孔虫は殻を作れなくなりました。中学生でもできる簡単な手法で道内各地の砂を観察した結果、石狩湾沿岸で有孔虫を確認。顕微鏡を通して北海道の海の素晴らしさを学び、海洋環境保護の意識を持つきっかけとなりました。

【審査評】 海砂の観察から海洋生物が暮らしていた大壮ドラマと関心が広がる環境学習を評価しました。